



施設編 - セッション12

自己評価の質問

1. 子どもたちが巣立ってからのアフターケア期間は、
 - a. 若者が自立していて、それ以降の支援を必要としないため、最も物事が簡単に運ぶ
 - b. 試練が待っているため、あらかじめ十分に準備しておく必要がある
 - c. 世界のどの国でもプログラムや行政による支援がある
 - d. 上記のいずれにも該当せず

2. 子どもたちが思春期による変化を経験するとき、養育者は、
 - a. それにまつわる問題を子どもたちが自力で解決できるため、干渉を避ける
 - b. 仲間との（子ども同士の）対話、交流、相互支援を推奨する
 - c. どのようなことが起こり、どのようなことが期待されるかについて、子どもたちに話す
 - d. 子どもの仲間グループとの話し合いを手配して、進行中の変化とこれから起こる変化に対するアイデアや期待について話し合う

3. 養育者は、10代の子どもたちに対して、
 - a. 幼い子どもたちよりも、厳しい姿勢を持つべきである
 - b. 幼い子どもたちよりも、寛容な姿勢を持つべきである
 - c. 厳しさと寛容さのバランスを取り、どんなことに交渉の余地があり、どんなことが言語道断かを明確に理解させなければならない
 - d. 幼い子どもたちに対するのと同様にあるべきである

4. 子どもたちが青年期に近づき、実親や親戚に会うことを望み始めたとき、養育者は、
 - a. 子どもたちが望むときにいつでも、実親や親戚に会いに行かせるべきである
 - b. 子どもたちが施設を出ることを禁ずるべきである
 - c. その都度、同伴して実親や親戚を訪ねるべきである
 - d. 定期的な面会を許可すべきである

5. 親許で暮らせない10代の子どもたちには、
 - a. モデルとなる人物が必要であるが、どの施設にも10代の子どもたちが必要とするものに応えられる人物がいるとは限らない
 - b. モデルとなる人物を見つけることに関心がない
 - c. モデルとなる人物は不要である
 - d. 実親をモデルとなる人物とみなす傾向がある